目 黒
基 地
JASDF Command and Staff College
航空自衛隊 幹部学校
航空自衛隊
Koku-Jieitai (JASDF)

■P3・・学校綱領、任務及び校章
■P4～P6・・幹部教育の紹介
■P7～P12・・研究活動の紹介
■P13～P15・・目黒基地・航空自衛隊幹部学校を支える隊員
■P16・・災害対処への取り組み
■P17・・航空自衛隊幹部学校の沿革
■P18・・学校地区全景
■P19・・幹部学校へのアクセス

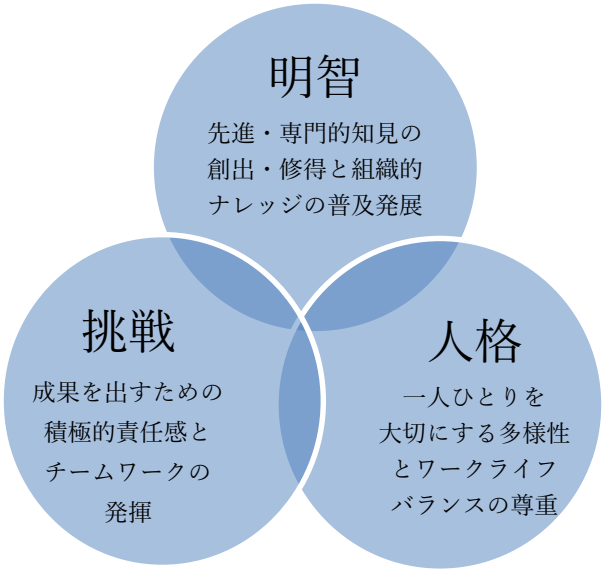
MEMO

学校綱領、任務及び校章

－学校綱領－

学校綱領は、幹部学校の使命を、学校職員及び学生が共通して目指すべき教育・研究の理念及び理念達成のための指針を明らかにするため、平成１２年９月に制定されました。
その後、令和元年８月に航空自衛隊の進化を先導すべく、新たな学校綱領が制定されました。

時代の潮流の来し方行く末を見据え変化を恐れず
航空宇宙に係る戦略・作戦術の教育・研究を極め
もって航空自衛隊の進化を先導する。



－任　務－

幹部学校の任務は、航空自衛隊の部隊の上級部隊指揮官又は上級幕僚としての職務を遂行するに必要な知識及び技能を取得させるための教育訓練を行うとともに、航空自衛隊における部隊の運用等に関する調査研究を行うことです。

－校　章－

幹部学校の校章は、星は明智と愛国の強い決意を、月桂樹は正義と平和の勝利を、双翼は空の護りを、 各々象徴しています。

■幹部教育の紹介

✈幹部学校における教育の目指すところ

航空自衛隊の最高学府として、厳しさが増す安全保障環境において、同盟国軍と連携しつつ、柔軟かつ効果的に航空・宇宙防衛力を運用し、国民の負託に応えられるリーダーを育てること。

✈幹部学校のミッション

国内外の著名な研究者や戦略・作戦の各分野のエキスパートによる教育により、課題を深く掘り下げ、既成概念に捉われることなく、自ら課題解決に取り組むとともに、自らが意思決定主体である認識を有する組織をけん引する真のリーダーを育むサポートをすること。

✈幹部学校が担任する主な教育

幹部学校の各課程においては、国内外の講師による講義、企業等の研修などの知識面の教育を基盤として、各種研究、討議に力を入れています。

また、指揮幕僚課程（ＣＳＣ）では、同課程相当の各国空軍大学学生との間で安全保障等に関する意見交換を行う「指揮幕僚課程学生多国間セミナー」を開催しています。これは、参加各国間の相互理解の深化及び信頼醸成を図ることにも寄与しています。

✈幹部高級課程（ＡＷＣ：Air War Course）

高級幹部自衛官を対象として、上級の部隊指揮官及び航空幕僚監部等の幕僚として必要な知識及び技能を修得させるもので、選抜された自衛官が履修します。

この課程では、軍事戦略、作戦に関する事項のみならず、より幅広い知識を得る観点から、政治・外交・経済・先進技術など幅広い分野に関する講義やゼミによる講座を展開しています。このため、大学教授をはじめ、企業やシンクタンクの研究者、各省庁の上級幹部などを講師として招へいし、充実した教育の実施を図っています。

【ＡＷＣの招へい講師】

髙井 晉
日本安全保障戦略研究所理事長
防衛研究所の研究室長、図書館長を歴任された後、笹川平和財団、日本安全保障戦略研究所において精力的に活動。専門は国際法、国際安全保障法。国際平和協力活動に関する教育の中でご教授頂いています。

矢嶋 康次
ニッセイ基礎研究所チーフエコノミスト
経済アナリストとしてご活躍でテレビでの常連コメンテーターでも著名な先生。
世界経済の動向や日本経済に現状についてご講義を頂いています。

近年、新たな防衛領域である宇宙・サイバー空間・電磁波領域の重要性が増しています。それらの現状について理解を深めるため、先端技術を有する関係企業への研修を同課程では積極的に行っています。

✈指揮幕僚課程（ＣＳＣ：Command & Staff Course）

中級幹部自衛官を対象として、将来における上級の指揮官及び幕僚として勤務するために必要な資質の向上及び継続的な自学研鑽に必要な素地を与えるもので、選抜試験に合格した自衛官が履修します。

◇地域情勢研究

国家又は地域に関する研究を通じて、国際社会における総合的な判断力を育成するとともに、企業からの参加者との相互啓発を図ることを目的としているものです。
研究にあたり、事前に戦略、地政学、国際法などの知識事項を修得するための有識者を招へいし、講座を設けています。

◇多国間セミナー

各国空軍大学の学生等と指揮幕僚課程学生間での安全保障に関する意見交換を行うことで、国際感覚を醸成し、参加国間の相互理解の深化と信頼醸成を図ることを目的としているものです。

◇国外研修

関係各国軍の部隊や学校等を実地に研修し、各国の軍事情勢及び軍の状況についての理解を深めるとともに、関係各国軍人との交流等を通じ、相互の理解及び良好な関係の構築を図っています。

（近年の実績：フィリピン、オーストラリア、韓国、インド、ベトナム）

✈その他の課程

課程名	教育の概要
幹部特別課程 Administrative Officers Course （ＡＯＣ）	中級幹部自衛官を対象として、分屯基地司令等又は方面隊などの幕僚として勤務するために必要な知識及び技能を修得させるもので、選抜された自衛官が履修します。
幹部普通課程 Squadron Officers Course （ＳＯＣ）	任官後１０年前後の幹部自衛官が履修するもので、中級の幹部自衛官（３佐～２佐）に向けた出発点となる課程です。レーダーサイトなどの部隊指揮官や航空団などの幕僚として勤務するために必要な知識及び技能を修得させるもので、全幹部自衛官が履修します。
上級事務官等講習 Civilian Advanced Course （ＣＡＣ）	航空自衛隊の事務官等が履修するもので、部隊等で指導的役割を担う上級事務官等として必要な知識及び技能を修得させます。

✈統合教育との連携

幹部学校が所在する目黒基地には、陸上自衛隊教育訓練研究本部、海上自衛隊幹部学校のほか、統合幕僚学校が所在しています。この素晴らしい環境を最大限活用し、統合運用に寄与できる学生を育むための教育にも力を入れています。

特に、ＡＷＣ卒業後は統合高級課程に進み、ＣＳＣでは統幕学校による統合教育に参加することとしており、より良い教育環境の保持に努めています。

◇　インタビュー

将来のトップリーダーを目指し切磋琢磨

幹部高級課程学生
１等空佐　山上　雅礼
高射運用幹部

Ｑ：幹部高級課程はどのような課程ですか。
Ａ：幹部高級課程は、上級の指揮官及び幕僚として勤務するに当たって必要な知識及び技能を修得するための課程で、戦略及び安全保障に関することを中心に様々な教育が行われています。教育に当たっては、自ら文献を読んで講義を受け、それを参考に考えをまとめて発表し、相互に意見を交換することに重点がおかれています。将来、航空自衛隊のトップリーダーとして活躍できるよう、学生相互が熱意をもって切磋琢磨しています。

Ｑ：入隊したきっかけは何ですか。
Ａ：大学進学を検討していた際、衣食住が提供されて勉学に集中できる環境が整っている防衛大学校の存在を知り、魅力的に感じて受験しました。その後、防衛大学校での厳しいながらも充実した教育及び訓練を通じ、幹部自衛官として我が国はもちろん世界の平和と安定に貢献したいと思うようになり、防衛大学校卒業と同時に航空自衛隊へ入隊しました。

Ｑ：高射運用幹部は希望されたのですか。
Ａ：はい。防衛大学校１学年の時に、北朝鮮からのミサイル発射がありました。これら弾道ミサイルの脅威に対して我が国を守る仕事をしたいと考え、航空自衛隊に入隊した際に高射運用幹部を希望しました。幸い、希望通り高射運用幹部に指定され、平成２４年には、北朝鮮からの人工衛星と称するミサイル発射に際し、弾道ミサイル等破壊措置に係る行動に従事するとともに、航空幕僚監部では弾道ミサイル防衛の態勢整備に関する業務を担当するなど、貴重な経験をすることができました。

Ｑ：幹部自衛官の魅力について教えてください。
Ａ：任務遂行に当たって大きな責任を負っているため、悩むことも多いです。一方で、弾道ミサイル等破壊措置に係る行動の時のように、隊員と力を合わせて任務を完遂した際には、何事にも代えられない感動を経験することができます。また、現在の厳しい安全保障環境において、国防の最前線で様々な取り組みに主体的に関与でき、刺激的かつ充実した日々を過ごすことができます。

仕事と育児を両立させて日々成長

指揮幕僚課程学生
３等空佐　眞野　晶子
会計調達幹部

Ｑ：指揮幕僚課程はどのような課程ですか。
Ａ：自衛隊の中核となる幹部自衛官としての資質向上、上級指揮官・幕僚として必要な基礎的知識、技能の修得を目的とした課程です。簡単に言えば、将来のためリーダーシップ、フォロワーシップとは何かについて徹底的に学ぶ課程です。

Ｑ：入隊したきっかけは何ですか。
Ａ：私は一般大学の社会学専攻で、「国防とは何か」ということについて具体的にイメージアップできていたわけではありませんが、海外で仕事をしたいという思いがあったことと、国防に携わることで自身の趣味である考古学や歴史を更に深く学ぶことができるかもしれないという思いがあったことがきっかけです。

Ｑ：会計調達幹部はどんな仕事ですか。
Ａ：予算の編成、執行計画の作成、調達要求、原価計算、契約、監督、検査等を実施し、航空自衛隊が任務を達成するために必要な基盤を整える仕事です。

Ｑ：女性幹部として勤務するにあたり心掛けていることはありますか。
Ａ：女性だから、といって特段心掛けていることはありません。力や得意不得意の差こそありますが、男女対等な組織です。ただし、仕事と育児を両立する中で周りの方々に支えて頂くことも多く、頂いた助言や支援を後世に繋げ、航空自衛隊として両立する体制作りを広げていくことの重要性を認識し、取り組んでいます。そして、幹部自衛官として様々な分野を勉強し、成長するためのモチベーションを維持し、実践することも意識しています。

■研究活動の紹介

✈幹部学校の研究活動が目指すもの
航空自衛隊の任務遂行の実効性を高めるための知的基盤として、航空宇宙防衛力の効果的な整備・運用に関するソリューションを提供する存在となること。

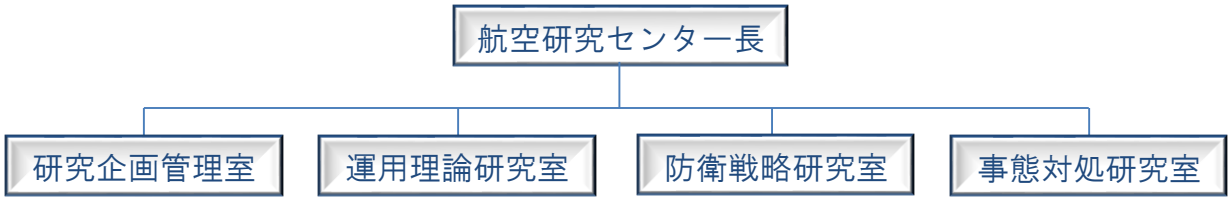
✈幹部学校における研究ミッション
戦略・作戦の各分野のエキスパートによる研究により、作戦や防衛力構築に関する意思決定者への適時かつ効果的なソリューションを提言すること。

✈航空・宇宙のパワーに関する研究の必要性

昨今の我が国を取り巻く安全保障環境の変化は急激なものとなっており、とりわけ航空・宇宙分野に関する技術革新の速度は加速している中、将来にわたり航空自衛隊が実効的な抑止・対処の活動を行うためには、航空・宇宙防衛力の構築・運用に係るソリューション提供に繋がる研究が不可欠と認識しています。

✈幹部学校における研究の組織

平成２６年（２０１４年）８月、航空防衛力の構築や作戦運用のエキスパートを配置する形で、幹部学校に「航空研究センター」が新設されました。研究は、航空幕僚監部や部隊などと連携して進めています。航空研究センターは、研究プロジェクトとして部署横断的に研究を進めており、各研究はプロジェクト・マネージャーにより進捗が管理され、適切な時期にソリューションを提供できるよう努めています。

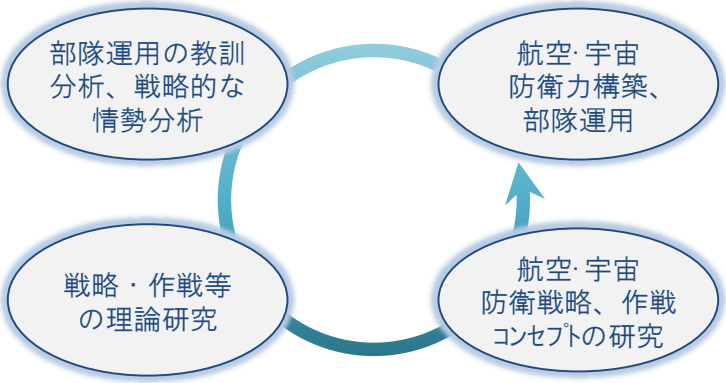


「航空研究センターの組織構成」

✈航空研究センターが重視する研究

航空研究センターは、航空防衛力の構築や部隊運用の結果から得られる教訓分析、戦略的な情勢分析などを通じて得られた事項に基づく研究を推進することにより、その成果を将来の航空・宇宙防衛力の構築や部隊運用の改善に役立てる「循環的な研究業務」を行っています。その中で次の事項を重視して研究を進めています。
研究は、客員研究員や大学・研究機関の研究員などのご協力を頂きながら進めています。

- ▹ 戦略・作戦などの理論の体系化に関する研究
- ▹ 航空防衛力構築、部隊運用の基礎となる防衛戦略に関する研究
- ▹ 部隊運用や訓練演習などから得られる教訓に関する業務



✈航空研究センターが注目する研究分野

研究センターの各種研究は、航空防衛力に関連するものの中から選定され、幹部学校長の指導のもとで、様々な研究プロジェクトを進めています。

▹ 将来の全ドメイン指揮統制のための能力構築
▹ 宇宙・サイバー領域の能力を最大限活用した戦略・作戦コンセプト
▹ 総合ミサイル防衛の在り方
▹ 電磁スペクトラム作戦の在り方
▹ 無人機運用／無人機による攻撃への対処
▹ 先端技術の将来航空防衛力への適用
▹ 意思決定の戦いのために必要な機能

✈研究プロジェクト、イベントなど

▹ セミナー、シンポジウム

航空研究センターでは、諸外国軍の研究員等を招いてのセミナー、安全保障分野に関する有識者や企業関係者を招いたシンポジウムを毎年度開催しています。

「セミナー、シンポジウムの様子」

▹ 演習等支援

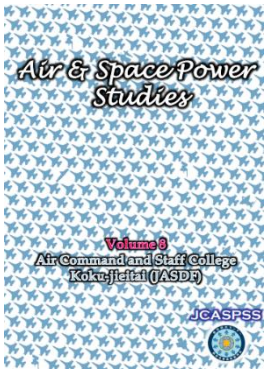
航空研究センターは、部隊運用における教訓収集・分析のほか、部隊が行う訓練演習の効果を高める観点から演習シナリオ作成支援、指揮官の意思決定を演練するための机上演習の実施などを行っています。

▹ 各種研究成果

航空研究センターの研究成果は、航空研究センターのホームページに掲載しています。

▹ エア＆スペース・パワー研究

航空研究センターでは、機関誌『エア＆スペース・パワー研究』を発刊しております。この機関誌は、目黒基地ホームページからご覧いただけます。
（https://www.mod.go.jp/asdf/meguro/center/index.html）



『エア＆スペース・パワー研究（第８号）表紙』

▹ 各種勉強会

航空研究センターは、目黒基地に所在するため、陸・海自衛隊の研究部門とも情報交換を行いながら、研究を進めています。加えて、安全保障分野の有識者、企業関係者、他国軍関係者等の方々との勉強会を通じ、知見を共有頂くとともに、研究成果の発信を行っています。

✈航空研究センターの研究者

航空研究センターには、戦略や作戦に関する専属の研究員を配置しているほか、有識者の方々に客員研究員として研究業務に参画頂いています。
また、近年では航空研究センターの研究員として幹部自衛官の「技術航空幹部」の制度を活用することで、研究の質の向上に繋げています（令和３年度末時点で、５名が所属）。

✈所属研究員の紹介【主な研究員】

航空研究センター長
１等空佐　杉山　公俊

✈学歴
防衛大学校人文社会学国際関係学科（学士）
上智大学大学院外国語学研究科研究生
タフツ大学フレッチャー法律外交大学院修士課程（修士）
ハーバード大学ウェザーヘッド国際問題研究所客員研究員
✈専門分野
航空防衛戦略、軍事ドクトリン
✈研究テーマ
航空自衛隊ドクトリン
宇宙・サイバー等領域における抑止

防衛戦略研究室長
１等空佐　水岩　伸吾

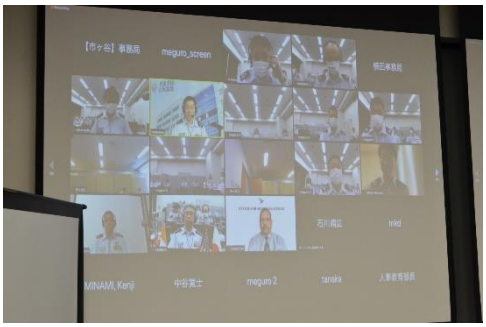
✈学歴
防衛大学校地球科学学科（学士(天文学)）
ブルッキングス客員研究員
✈専門分野
防衛協力、非核化協力、遺棄化学兵器（ＡＷＣ）
✈研究テーマ
イノベーション、米国軍事戦略
✈研究業績
「Recommendation of Japan Open Innovation Ecosystem」

研究員　２等空佐　卜部　泰三

✈学歴
京都大学理学部卒（学士）
同大学院エネルギー科学研究科修士課程修了
（修士(エネルギー科学)）
防衛大学校総合安全保障研究科前期課程（修士(安全保障学)）
✈専門分野
宇宙
✈研究テーマ
宇宙領域に関する研究
✈研究業績
「主要国の取り組みの現状」『エア・アンド・スペース・パワー研究』第7号別冊、2021年3月
「宇宙における攻撃的な行動の抑止」『国際安全保障』2022年

研究員　２等空佐　阿部　竹浩

✈学歴
防衛大学校国際関係学科（学士(社会科学)）
千葉大学大学院専門法務研究科（法務博士）
司法試験合格（２０１２年）
アデレード・ロースクール（ＬＬＭ）
✈専門分野
国際法（武力紛争法、宇宙法）、防衛法
✈研究テーマ
宇宙法と武力紛争法の交錯



「オンラインでのセミナーの様子」

研究員　３等空佐　丹羽　雅士

✈学歴
防衛大学地球海洋学科（学士(理学)）
政策研究大学院大学（修士課程(政策研究)）（履修中）
✈専門分野
戦略、意思決定、インド太平洋安全保障
✈研究テーマ
インドの武力使用に関する研究

研究員　３等空佐　柴田　龍一

✈学歴
福岡県立筑紫丘高校（理数科）
✈専門分野
サイバーセキュリティ、情報通信
✈研究テーマ
サイバー空間における抑止力に関する研究
将来のサイバー戦の様相に関する研究

研究員　３等空佐　山本 哲史

✈学歴
神戸商船大学商船学部（学士(工学)）
名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻（修士）
同博士課程（博士(学術)）
✈専門分野
戦略、国際法、人権、難民
✈研究テーマ
2020年度　エア・パワー戦略における無人機、ＭＡＳを用いた抑止研究
2021年度　航空支配に関する研究
✈研究業績
「無人機とエアパワー戦略」『エア・アンド・スペース・パワー研究』第8号、 2021年7月
「シェリングの抑止理論」『エア・パワー研究』第6号、2019年
「日本におけるシリア人の難民認定基準からみる難民認定制度の実態ー国際法学の視点から」『難民研究ジャーナル』第7号、2017年12月
「難民認定審査の多段階的構造と各段階における判断の性『灰色の利益』論の位置づけと機能」『国際法外交雑誌』第112巻第4号、2014年

◇　インタビュー

正直言って、私自身、自衛官になる日が来るとは全く想像していませんでした。

これまで長く大学で研究や教員の仕事をしてきました。自衛隊には全く接点のない仕事です。この転職について、私自身は不安を持ちませんでしたが、家族や友人は驚いていたというか、「え、山本さんが自衛隊？」と半ばあきれていたような状態です（笑）

採用枠としては、安全保障を専門とする技術幹部ですが、枠にこだわらず、この職場は学術研究のプロとして培った論理構成力や情報収集力などを積極評価してくれます。同僚として接してみると、自衛官には理知的で懐が深く柔軟な人が多いという印象です。

そうは言っても自衛官ですから、頭だけでできる仕事ばかりではありません。入隊してすぐに奈良基地で２ヶ月ほどの導入訓練があるのですが、年齢的にもこれはなかなか厳しいものです。朝から上半身裸で駆け足、体力練成、自衛官としての各種素養を身に付けるための教育もあり、大変です。これまで大学生や大学院生に授業や指導をする立場でしたし、そもそも人の話を鵜呑みにせず批判的に扱うのが研究者です。中には理屈の不明な講義や訓練もあり（ごめんなさい！）なかなか教育内容が頭に入ってきません。

「幹部自衛官であり、研究者という特殊な仕事」

でも、逆にこんな経験がこの歳でできるのは本当にありがたく、自分なりに多くの発見も感動もありました。

大学等に所属する一般的な研究者としての仕事では飽き足らないという方、ぜひ挑戦してください。安全保障研究を軍事研究と差別せず、平和研究の中核として捉え、現実に貢献することができる稀な仕事です。平和を真剣に考え、行動し、現実に関与したいという優秀な方、全く新しい世界に飛び込む勇気と行動力のある方、お待ちしています。
共に働きましょう。

「シンポジウムの様子」

◇インタビュー

「自衛隊に入隊して」

私が技術航空幹部として航空自衛隊に入隊するきっかけとなったのが、現在、幹部学校で勤務する同僚隊員（当時、運用理論研究室勤務）と４年前に日本で知り合ったことです。当時、私は英国レディング大学の博士課程に在学する学生でした。

恥ずかしながら、その当時、航空自衛隊に研究機関が存在することは知りませんでした。逆に、日本の国防を最前線で担う航空自衛隊では、どのような研究が行われているか非常に興味を持ちました。その後、同隊員が中心となって定期開催されていた勉強会にも講師として招待され、勉強会を通じ、自分が学んでいた安全保障、戦略理論等の知識を活かせると直接肌で感じ、自らも航空自衛隊の一員となり、日本の安全保障に携わる人物にとなりたいと思い入隊しました。

航空研究センターは、自分が英国で学んだ専門知識が豊富な先輩たちに囲まれ、実務家としての意見も伺えるため、実践的な知識の幅が拡がるのを日々感じます。

また、入隊する前は、国の機関であることから勤務形態に柔軟性がなく、すごく忙しい職場だと考えていました。実際には、フレックス制度により、勤務形態は柔軟であり、金曜日は早めに勤務が終わるなど、個の充実も図られる職場であり、仕事とプライベートのメリハリをつけられる非常に働きやすい職場です。

今後はセンターで行う研究を日本だけでなく国外にも発信できるような人材になりたいです。

研究員　３等空佐　中谷 寛士

✈学歴

バーミンガム大学大学院（修士）

レディング大学大学院（博士）

✈専門分野

戦略論、冷戦史、国際政治

✈研究テーマ

2020年度　テーラード抑止研究

2021年度　戦略的コミュニケーション、大国間競争

✈研究業績

「冷戦下のクラウゼヴィッツーエスカレーションとクラウゼヴィッツの復活―」『日本クラウゼヴィッツ学会会報』第18号、2018年9月

「The Development of US Extended Nuclear Deterrence over Japan: A Study of Invisible Deterrence between 1945 and 1970」 PhD Thesis, University of Reading 2019

「セミナー、勉強会などでの意見交換の様子」
活発な意見交換により、知見を吸収することに加え、
研究への気付きを得ることを狙いとして行っています。

【客員研究員】

（元空将）平田　英俊
元航空教育集団司令官

（元空将）尾上　定正
三井物産株式会社ﾓﾋﾞﾘﾃｨ第2本部
ｴｸﾞｾﾞｸﾃｨﾌﾞｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ

（元空将補）時藤　和夫
株式会社日立製作所
ﾃﾞｨﾌｪﾝｽﾋﾞｼﾞﾈｽﾕﾆｯﾄ顧問、
情報処理安全確保支援士

小泉　吉功
JAXA経営推進部客員参与

前田　裕昭
ﾗｲﾄﾊｳｽﾃｸﾉﾛｼﾞｰ･ｱﾝﾄﾞ･ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ
株式会社代表取締役社長

光辻　克馬
東京理科大学・東洋大学
非常勤講師

村上　政俊
皇學館大学　准教授

福田　潤一
笹川平和財団研究員

◇　インタビュー

「良質な刺激を受け、自身の研究活動の励み」

幹部学校客員研究員の福田潤一です。

実は私は客員研究員制度導入時に初代の客員研究員として招聘していただきまして、現在再任中という形になります。

幹部学校では、主に抑止やエスカレーション管理の観点から航空領域を含む領域横断的な課題への対処という課題に関心を持って活動しており、その他にアジア地域における中距離核戦力（ＩＮＦ）全廃条約失効後の戦域ミサイル配備の問題にも関心を持っております。

客員研究員への就任は、研究活動上のご縁があってのことですが、将来の空戦を巡る様々な課題に真剣な問題意識を持って取り組んでおられる幹部学校の皆様との交流を通じ、大変良質な刺激を受け、自身の研究活動の励みとなっております。

私自身の活動としても、幹部学校ひいては航空自衛隊にとって有益な知見を提供できるよう、今後も励んでいきたく思う所存です。

✈技術航空幹部の募集

航空研究センターには、「技術航空幹部」として採用された研究員が勤務しています。この制度は、大学において応募資格に定められた学部・専攻学科等を卒業後、関連する業務（勤務）経験のある人を対象にその経験を活かし、装備品等の研究開発、維持整備、宇宙、通信、心理、気象及び看護に関する業務に従事する幹部自衛官を採用するものです。

航空自衛隊幹部学校では、電気、電子、通信、航空宇宙、サイバーセキュリティ等の研究開発部署における業務経験（人工知能、エネルギー、量子等の先端技術に係る業務経験を含む）を２年以上有する方を求めています。

入隊後、航空自衛隊幹部候補生学校（奈良県奈良市）において、約２か月間、幹部自衛官として必要な教育を受けてから、航空研究センターに配置されます。

技術航空幹部の募集については、防衛省ホームページからもご覧いただけます。
（https://www.mod.go.jp/gsdf/jieikanbosyu/recruit/13.html）

■航空自衛隊幹部学校・目黒基地を支える隊員

・　基地の維持管理のほか、学校行事や運営、各種訓練、隊員の食事、福利厚生、予算、医療、などの管理運営を担任している隊員がいます。
・　総務課、人事課、計画課のほか、庶務課、管理課、通信課、業務課、会計課及び衛生課、図書館など、任務を達成するため、多種多様な業務に「誇り」と「やりがい」をもった隊員が活躍しています。

◇　活動風景

航空自衛隊
幹部学校キャラクター
「め組のめぐからくん」

幹部学校空上げ 「東京三昧２０２０」
東京産の味付けにこだわり、調味料等３種類（江戸味噌、天然醸造醤油（あきる野市）及びもんじゃ）を使用した、バラエティに富んだ東京の味です。

幹部学校に所属する隊員は、日頃から体力の維持向上に努めており、施設の維持管理や車両整備のほか目黒基地で働く隊員の食事や健康管理、様々な事務処理などの活動を行っています。

◇　インタビュー

防衛事務官　望月　夏帆
（総務課総務班）

幹部学校で行われる行事全般のサポートや、文書の受付、来訪される方のご案内などの業務を担当しています。幅広く多くの事を覚えなければならないので、しっかりと勉強して、学校運営に貢献していきたいです。

２等空曹　荒木　　慧
（人事課人事班）

幹部学校の隊員の昇任、昇給、人事評価等に関する経歴業務と採用試験や地本のサポート等を行う募集業務を担当しています。隊員一人一人のモチベーションの向上を図ることでより強い組織を作れるよう、公正な人事業務を志しています。

防衛事務官　金山　太郎
（計画課国際交流支援班）

幹部学校における派遣留学生の支援や多国間セミナーの調整など、諸外国軍との交流に係る業務を実施しています。英語を用いるこの業務は新たな発見や学びが多く、やりがいが大きいことが特徴です。幹部学校と国際社会とをつなぐ架け橋になれれば幸いです。

曹長　松永　龍一
（業務課給食班）

目黒基地に勤務する隊員に、朝食・昼食・夕食を毎日提供する業務を担当しています。また、海外派遣時の隊員の食事や、災害発生時には被災者の皆様の食事の準備を行います。私たちが調理した食事が、食べた方々の活力になることがとても光栄でやりがいのある仕事です。

２等空曹　深沢　秀明
（通信課通信班）

データ通信により文書や電報といった行政文書を各基地に送受信し、基地間の連携を図っております。迅速、確実、保全をモットーに皆様の思いを届ける架け橋となりたいです。

３等空曹　河野　隆寛
（庶務課企画班）

目黒基地正門などで入出者の確認や、基地の外柵沿いを定期的に巡回して異常がないか確認しています。最近子供が生まれたので、父親としての自覚を持ち、職場と家庭の両立を心掛けて、父親を楽しんでいます。

２等空曹　出口　拓賢治
（業務課厚生班）

目黒基地に勤務する隊員やその家族の生活の安定と向上を支援する業務を担当しています。隊員が活き活きと働けるように、全力でサポートしています。

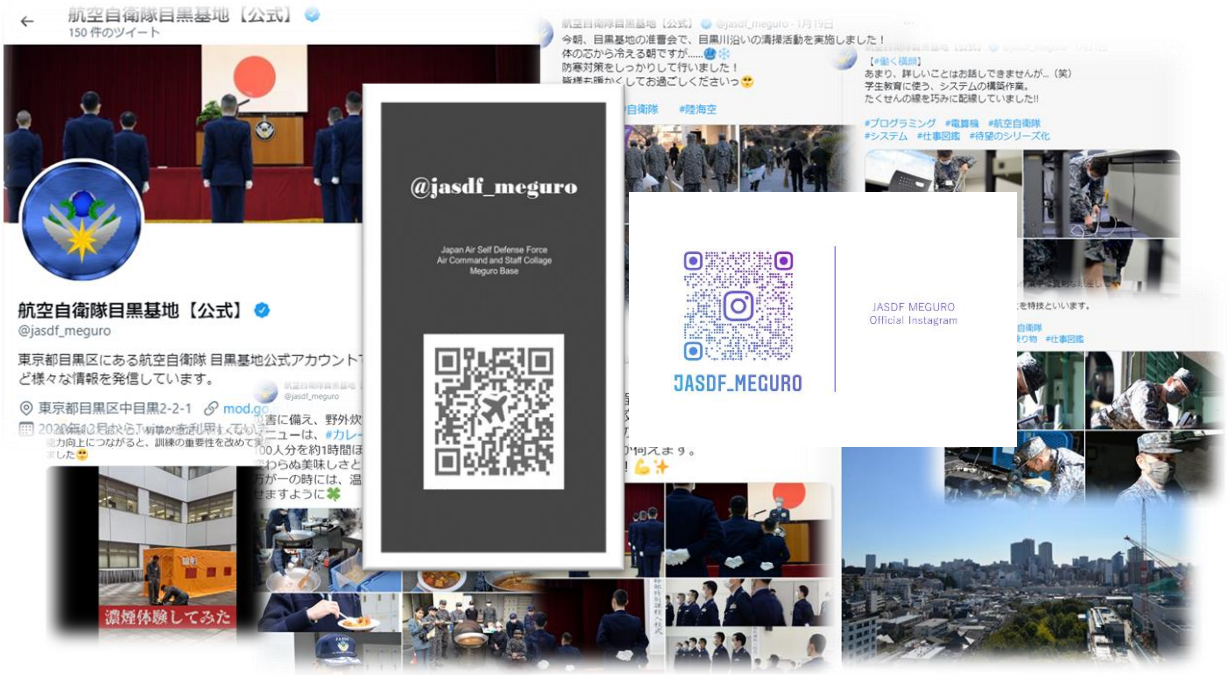
３等空曹　西山　大毅
（会計課会計班）

旅費業務を担当しています。出張等が集中する時期は大変ですが、適切に予算管理し迅速な支給を行うことで、部隊運営に支障をきたすことなく、任務遂行に寄与できることにとてもやりがいを感じています。

空士長　田畑　健太
（管理課施設班）

令和３年度に自衛隊に入隊し、先輩に色々な事を教えていただきながら目黒基地の受電設備等の維持、管理業務に携わっています。工業高校電気科で学んだ知識技能を活かして早く一人前になれるよう努力しています。

航空自衛隊幹部学校では、**ツイッター**や**インスタグラム**で隊員の活動の様子などを発信しています。



図書館

幹部学校図書館は、軍事、社会科学、各種論文誌等、約１３万冊を所蔵しています。年間、延べ２万人前後の利用者がおり、継続的に新刊図書等を購入・配架しています。

〈図書館長〉
防衛技官　數納勝彦

新刊図書のみならず、旧軍時代の図書も所蔵しています。

第１５代航空幕僚長山田空将の直筆翻訳ノート

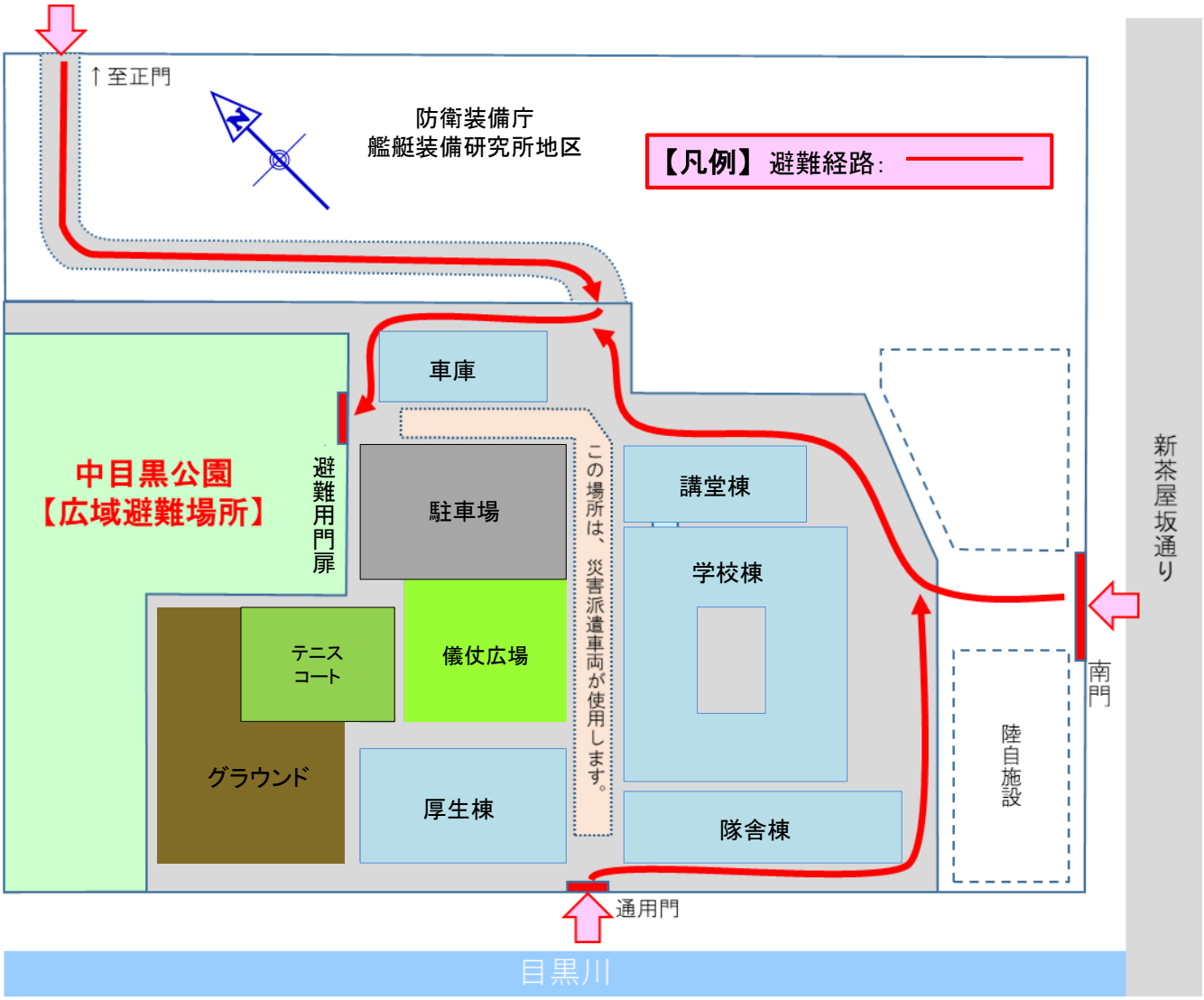
■災害対処への取り組み

✈目黒基地の役割
首都直下型地震災害に備え、基地機能の維持・復旧及び航空自衛隊の実施する災害対処活動の前線における活動拠点としての役割を担っています。

✈目黒区との覚書による発災時の初動活動
基地に隣接する中目黒公園は、東京都の広域避難場所に指定されており、目黒区との間において平成１４年から災害発生時における避難住民の避難所への基地内の誘導に関わる協定を締結し、自治体との連携に力を入れています。

【災害時避難経路のご案内】

災害が発生した場合、航空自衛隊幹部学校は、防衛装備庁（艦艇装備研究所）及び陸上自衛隊教育訓練研究本部と協力して、基地に隣接する「広域避難場所」に避難する方々が迅速かつ安全に移動して頂くため、敷地内の門扉を開放し、避難誘導を行います。



■航空自衛隊幹部学校の沿革

「航空研究センター新編」

「留学生会館」

- ２０１８年　陸上自衛隊教育訓練研究本部新編
- ２０１６年　防衛研究所市ヶ谷移転
- ２０１４年　航空研究センター新編
- ２００６年　艦艇装備研究所が設立
- ２００１年　幹部特別課程開始
- １９９７年　第１補給処東京支所が十条へ移転
- １９９４年　幹部学校目黒へ移転
- １９９２年　留学生教育受託開始
- １９７１年　上級事務官等講習開始
- １９６１年　指揮幕僚課程入試制度開始
- １９６０年　第１補給処東京支処が港区から移転
- １９５９年　幹部学校を浜松から市ヶ谷へ移転
- １９５８年　防衛研修所が霞が関から移転
- １９５７年　技術研究所目黒試験場設置
- １９５６年　幹部高級課程、幹部普通課程開始
- １９５６年　ｴﾋﾞｽｷｬﾝﾌﾟ進駐軍接収解除
- １９５５年　指揮幕僚課程開始
- １９５４年　幹部学校新設（浜松）
- １９４５年　英連邦(豪州軍)が進駐(ｴﾋﾞｽｷｬﾝﾌﾟ)
- １９３０年　海軍技術研究所が築地から移転
- １８８５年　海軍火薬製造所を建設
- １８８０年　明治政府が目黒火薬製造所を発足
- １８５７年　徳川幕府が砲薬製造所を開設

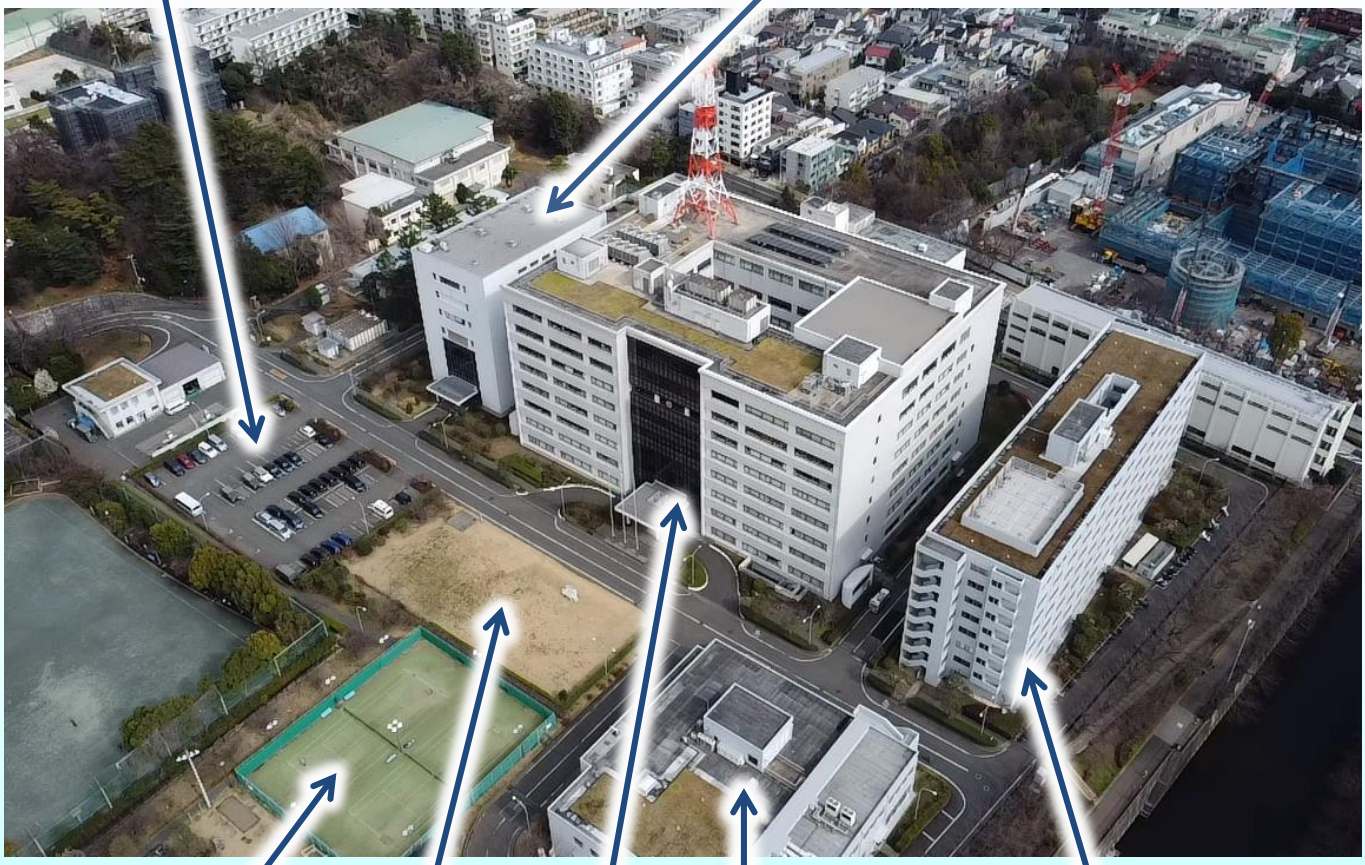
「幹部学校（市ヶ谷）」

「目黒川の桜並木（右河岸は幹部学校 水色の建物は隊舎棟）」

■学校地区全景

講堂棟
（図書館・大講堂・体育館）
図書館には、研究・教育に必要な資料・書籍を所蔵しています。
所属隊員、学生のみ利用可能です。

駐車場
一般の方は、こちらをご利用ください。
なお、乗入には正門での申請が必要です。



儀仗広場

テニスコート

隊舎棟
陸海空の隊員のほか、幹部普通課程の学生なども起居しています。

厚生棟
幹部食堂、隊員食堂のほか、保険、理髪、クリーニング、委託食堂の店舗があります。

学校棟
航空自衛隊幹部学校のほか
◇統合幕僚学校
◇陸上自衛隊教育訓練研究本部
◇海上自衛隊幹部学校
が所在しています。

幹部学校へのアクセス

目黒基地：ＪＲ山手線「恵比寿駅」から徒歩７分（正門まで）
幹部学校：目黒基地正門から幹部学校まで徒歩８分

※　目黒基地正門へは、「東急バス停　防衛省技術研究所前」を目指して下さい。

〒１５３－８９３３
東京都目黒区中目黒２－２－１
電話（代表）：０３（５７２１）７０１４
URL:　https://www.mod.go.jp/asdf/meguro/
お問い合わせ先：航空自衛隊幹部学校総務課

目黒基地　検索

ＱＲコードを読み取って頂くと、目黒基地ホームページにアクセスできます。

航空自衛隊 幹部学校

目	黒
基	地